

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371691150		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田 (3階)		
所在地	愛知県名古屋市長白区植田一丁目1807		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JqyosyoCd=2371601150-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JqyosyoCd=2371601150-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地5
訪問調査日	平成29年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないような声掛けをしながらのケアを重視しています。ご本人のやれる事、したい事を見極めながら利用者様同士の関係にも配慮し、楽しくゆったりとした生活が送れるように生活空間づくりと環境を整え、四季折々の行事やレクリエーションに組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接する山内外科との連携を密に取り、24時間体制で安心していただけるよう健康管理を行っています。口腔面でもワイワイデンタルクリニックの医師、歯科衛生士と連携し口腔ケア及び維持管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、複数の公共交通機関が利用できる便利なところに位置し、近くにはマンションや住宅、また買い物にも便利な商店が立ち並んでいる。建物は、4階建て2ユニットのグループホームであり、1階と4階がリビングダイニング、2階と3階が居室となっている。4階には広いベランダがありお天気の良い日には周りの景色を眺めたり、お茶をしたりして季節を感じながら過ごすことができる。道を隔てて法人の病院があり月2回の往診と随時の診察、緊急時、夜間の往診や歯科医の診察と治療、リハビリも受けられ医療体制が整っている。入居者のやりたい事、行きたい所をケアプランの目標に掲げ、楽しみに繋がるように職員が一体となって取り組んでいる。入居者は、ユニットごとのエレベーターを利用し1階の明るいうちリビングに集まって和やかに食事をしたりテレビを見たり、気の合う入居者同士言葉を交わしたりして楽しく交流している。入居者はリビングやソファなど気に入った場所で職員と語りながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念を施設内に掲示しスタッフ間に意識付け、実践に繋げています。また当施設では、個々にゆっくり、のんびりとしたその人らしい生活ペースで暮らしを送れるように努めています。	法人の理念を基に事業所独自の理念「今までとかわらない心安らかで心と暮らし」を掲げ、入居者に寄り添い昔の話などをじっくり聞いて、信頼関係を築き心身ともに健やかに過ごせるよう、笑顔で感謝の気持ちを持って接している。毎朝の申し送り時には職員全員で理念を確認し共有して日々のケアに繋げるよう努力している。	地域に発信する広報などに記載するなどして地域や施設を訪れる方にも理念や取り組みなどその姿勢が伝わるような工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだですが、散歩や買い物、今年度も地域の行事にも積極的に参加し、施設だけの生活にならないように、交流を図っています。	法人理事が町内会に加入し地域情報を入手している。神社の餅投げや夏祭り、公園でのクリスマスイベントに積極的に参加して地域との繋がりを継続するよう努めている。施設で開催する七夕会やお正月のお祝いに地域のボランティアの方の手料理が振る舞われたり、落語や手品などを見て楽しんで地域との交流を大切にしている。散歩時には地域の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記を実践し、少しずつ声をかけてくださる人や関心を示してくくださる人も増えてきました。今後は施設内の行事等を通じもっと地域との関わりを深めていけるように努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ご家族様利用者様からの意見や要望反映できるように努めています。いきいき支援センターの職員にも参加していただき、情報交換の場を設け、サービス向上に生かせるように努めています。	入居者や家族、地域代表やいきいき支援センターの職員の参加を得て年6回開催している。日ごろの活動の様子や施設状況の報告、地域との情報交換などが行われている。提案や意見は記録され職員会議などで協議し、運営に活かしている。家族からは活発な意見が出ないのが現状である。家族には「ふぁみりあだより」に会議案内を記載して議事録も郵送している。	地域の情報や運営等の協議事項、要望等の聴取をして、運営に反映させるためにも、地域関係者が運営推進会議へ参加して頂けるように継続的に積極的な働きかけをしていくことを願いたい。また、会議内容の希望を聞いたり、テーマを設けたりして勉強会等の計画も入れ、内容を工夫していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との連携の元、相談、指導等を受けながら、実情やサービスの取り組み、改善点に関しても協力関係を築いています。	認定更新時や代行申請時など行政を訪れた折に、担当者に相談をしたり、アドバイスや指導を受けたりして協力関係を築いている。市から案内のある研修や講習会などには積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯と利用者様の安全上やむをえず施錠しておりますが、状況に合わせて解錠しています。身体面では利用者様の安全を考慮しご家族様の同意を得た上で最小限で行い、日々の業務のなかで話し合い安全なケアに取り組んでいます。	法人内の研修計画に組み込まれており、必ず参加している。スピーチロック等についてお互いに意識しあって、声を掛け合っている。問題があると感じたら、その場で話すようにしている。入居者の意向に沿って居室やリビングなどへの階の移動は自由に行えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに乗っ取りスタッフ間で互いに注意を払い、業務に当たりコミュニケーションを大切に、ミーティングや法人の勉強会で学ぶ機会を設け予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者等が研修にいき、必要に応じて支援していけるようにしています。法人での勉強会を通して、職員一人ひとり理解し支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者「施設長」や支援専門員により、当施設の方針や内容等について十分説明し納得していただいた上で、契約を交わし、入居していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月毎の運営推進会議の開催時や面会時等にご家族様からの意見や要望を伺う機会をもうけ運営に活かしています。	入居者からは、日常のケアや会話などからやりたいことや困っていることなどの思いを聞き、記録して運営に反映している。家族は、面会時にコミュニケーションを図って意見や要望など言い易い関係を作っている。家族に送付する手紙の中にアンケートを入れて意見を収集、しカンファレンスなどで話し合い運営に活かしている。玄関には意見箱が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングや臨時のミーティングを開催しその意見を元に問題点やスタッフの意見や提案聞く機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています。	月1回のミーティングや臨時のミーティングでは職員からの提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。管理者と職員は話しやすい関係ができており、日常的に意見を交わしている。個人面談は随時行っており、職員の提案や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状態を把握し、公平に判断し各自の向上に努めて印す。また時間外については、必要に応じ給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の勉強会や施設内の勉強会を開催し、個々に参加する機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会への参加をする機会を設けサービスの向上に努めています。他に南東部GH交流会に加入し同業者と交流を図り相互訪問や勉強会等を通じサービス向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から契約の間もご家族様が安心していただけるように十分な説明を行うとともに、ご家族様やご本人様の話に耳を傾けスタッフ間での伝達を行い、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様にとって、何が今必要なかを、スタッフの目を通し見極め、安心していただけるようサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居までの生活リズムを崩さないように、一人ひとりの人間性や性格に配慮し、同じ目線で話し、日常生活の営みの中で会話等を通じ教わることもあり共に暮らしていける関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室や衣類などご本人様に馴染みの品物等を用意していただけるよう支援し、昔からの馴染みの方々との関係も途切れないように支援し安心して生活していただけるように支援しています。	入居前の情報から馴染みの人や場所を把握している。面会で友人と会えた時などは、楽しく過ごし継続に繋がるよう支援したり、買い物などで好みの衣料品などを買ったりして今までの生活習慣を維持する事を大切にしている。毎日の散歩や買い物での挨拶や外食先などは新しい馴染みの人や場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う利用者様同士テーブルに集うよう配慮し孤立してしまう利用者様には、スタッフが1対1で対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ連絡を取り合い営家を大切に相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で訴えや意向に耳を傾け、把握に努め意思表示が困難な方に関しては表情や日頃の状況をスタッフ間で話し合い本人の意向にそえるよう努めています。	入居時にフェイスシートで環境や生い立ち「できること、できない事」今までの仕事や家族との関係等を把握している。日々の生活の中での会話や表情から思いや意向を把握して職員間で話し合いケアに繋げている。思いの表出の少ない方には表情やしぐさから読み取り、家族からの協力も得ながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりフェイスシートやサマリーを活用し、ご家族様面会時等にも話を伺う機会を設け把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の情報交換や申し送り、介護記録を活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフにケアプランの担当になってもらいご本人様、ご家族様の意見・意思を参考に介護計画に反映できるよう定期的に支援専門員及び計画作成者を交え話し合いを持ち支援計画を作成しています。	3か月に1回モニタリング、6か月ごとに介護計画の見直しを行っている。担当スタッフは、入居者や家族の意見や要望を聞き、管理者や医師、理学療法士等関係者の意見を反映しながら見直しを行い、目標設定をして現状に即した介護計画を作成している。状態の変化があった場合は、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有しミーティング等で話し合いケアの実践に活かしながら介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいき支援センター等の協力の下、その時々で社会資源を活用し、サービスを支援していけるようにつとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物先や外出先を決め外出の機会を増やし地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療や、体調変化に応じて随時病院受診、夜間急変時等24時間対応していただき、ご本人様やご家族様に安心していただけるよう支援しています。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。かかりつけ医を希望される方は家族対応をお願いしている。内科は、ホームドクターによる往診が月2回あり、外科、眼科、歯科も法人内の組織で対応している。状況が変化した場合は、24時間対応で協力医や訪問看護師等の連携により速やかで適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護により健康管理と現状把握を行い随時山内外科の看護師、訪問看護師と連携を図り24時間適切な指示支援を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換や相談はは密に行うよう努め、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合には、医師、看護師ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフ間で状況を共有し、共に支援に取り組んでいます。	入居時に重度化や終末期に向けた方針について説明をし同意を得ている。施設として出来ること、出来ないことを提示して、家族に納得していただき看取りを行っている。重度化した場合は、早めに家族や関係者と話し合いを持ちスタッフ間で状況を共有しケアに努めている。法人内では、看取りの研修を年1回行い、その都度ミーティングを開いて職員が安心して看取りができるよう管理者や医師が声掛けをしチームでの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会、年二回の避難訓練時、対応や予防について理解を深めています。事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡が取れるよう体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年二回の消防訓練を実施し、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるように、装置の点検、確認を行っています。	年2回消防署員立会いの下、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施している。屋上ベランダを一時避難場所にして消防の救助を待つなど避難方法や救助方法など消防署と取り決めて、より安全に避難できるよう話し合いを重ねている。防災マニュアルが整備され緊急連絡網や夜間対応などについて日頃から職員で話し合い確認し合っている。AEDの訓練も行われている。備蓄は水、食料など3日分用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場煮立ち、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、スタッフ間で注意しながら対応しています。時には方言等を交えながら親近感を持っていただける用、対応しています。	入居時にアセスメントを行い人生の先輩として尊厳を尊重して接することを大事にしている。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなどに配慮し、いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応をするよう確認し合い支援に努めている。トイレや入浴時にもプライバシーに配慮し、希望者には同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の希望に沿えるよう援助しています。また言葉ではうまく表現できない利用者様に対しては、表現等で察知できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活のペースにあわせて、過ごしていただけるよう空間作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の状態や気候にあわせて、好みの服装を選んだり、本人の代わりに支援しています。訪問美容師の方に2ヶ月に1回好みの髪型に整えていただいたり、馴染みの化粧品を用意していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いや意欲に配慮し、一人ひとりのペースにあわせて召し上がっていただけるように支援しています。また月に一度お楽しみ食として可能な利用者様には調理や盛りつけを手伝って頂くなどの支援に努めています	食事は法人のセントラルキッチンで作られ真空パックで届けられ、事業所で温めて配膳している。2か月に1回給食会議が開かれメニュー等検討されている。入居者の嗜好を把握し肉や魚など苦手なものは別の食材で対応している。お楽しみ会では、手作りおやつなどの調理や盛り付けなど一緒に作って楽しんでいる。菜園で育てた野菜を食事に添えて楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態での摂取を行い食事量水分量は記録し、把握を行い、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行って頂きながら、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、利用者様の状態に合わせ、声掛け、介助等で口腔ケアを実施しています。また週1回の訪問歯科医、歯科衛生士によるケア、受診による口腔衛生を行って頂きながら支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車いす利用の方でも、自走や立位など自立に向けた支援を行っています。また夜間もポータブルトイレや安眠できるようパッド種類も随時検討しながら支援しています。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握したり、表情や仕草などを見逃さずトイレ誘導したり、座位が困難になるまで、トイレでの排泄の支援に努めている。夜間の声掛けを少なくして睡眠を優先できるようポータブルトイレの使用やパッドの検討もしながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、一日2回のラジオ体操や天候に合わせた散歩等を実施したり乳製品をとるように心がけ、状況に応じて医師の指示の元下剤等の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立したかたは、ほぼ毎日介助の必要な方は入浴日を決め、援助しています。入浴できない方には、定期的に清拭を実施しております。また季節感を出すためにゆず湯を楽しんでいただいております。	入浴は週2回程度を基本にして日中を入浴時間帯としているが、毎日の入浴も可能である。入浴を拒む方には声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるよう支援している。シャンプー等好きなものを使用している入居者もいる。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムにあわせて、日中の活動量を調整し、居室での休憩時間を確保し、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じて医師と相談し入眠剤の検討も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下服薬管理を行い、個別の看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年二回の合同行事、花見や散歩など外気に触れ気分転換を図れるよう外出計画を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見ながら、利用者様の体調に合わせ、外出の機会を設け支援を行い、ご家族様の参加も呼びかけています。	気候の良いときは買い物や喫茶店、近隣の公園等に外出している。外の駐車場や屋上のベランダでおやつを食べる等して外気に触れる支援にも心がけている。法人として年2回(恵那峡やいちご狩)のバス旅行、施設で行う外出レクのお花見や外食など入居者の意向を聞いて普段行けないようなところに出掛け楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立て替えであり利用者様に応じて、そのとき所持して頂き、買い物の援助を行い、利用者様の意識維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了承のもと電話対応、手紙のやり取りは出来る限り本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地のよい空間作りを大切にしながら、生活して頂けるよう工夫に努めています。	明るいきりびんぐは入居者に配慮してカーテンで明るさを調整し眩しくないよう工夫されている。入居者が職員と一緒に作った季節を感じさせる飾り物や毎月行われるイベントの作品がさりげなく飾られ心穏やかな雰囲気となっている。室内の温度や湿度等も快適に調整され居心地良く過ごせるよう配慮されている。	1階のリビングで入居者が合同で食事をしたり寛いだりして、日中ほとんど過ごすことが多い状況にある。スペースに対して人数や家具等の配置で窮屈さや、とっさの場合の危険性を感じる。入居者や職員の動線を確保し、心地よく過ごせるような環境の工夫を願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の思い通りに穏やかな時間を過ごしていただけるよう、利用者様同士、気軽に行き来出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのもの、写真や馴染みの物などを飾るなど工夫し、居心地のよい部屋作りに配慮しています。	居室には使い慣れた筆筒や冷蔵庫、趣味の観葉植物や家族の写真等好みのものを置いて入居者が心地よく過ごせるよう配慮している。入居者は居室で、テレビを見て寛いだり、心穏やかに本を読んだり、好きな折り紙をしたりして自分の時間を大切に思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自由に楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供し、一方的にならないよう、「できること」「わかること」を確認しながら、安全な環境作りを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう工夫して支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田 (2階)		
所在地	愛知県名古屋市長区植田一丁目1807		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JqyosyoCd=2371601150-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JqyosyoCd=2371601150-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地5
訪問調査日	平成29年11月8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

スタッフ一人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないような声掛けをしながらのケアを重視しています。ご本人のやれる事、したい事を見極めながら利用者様同士の関係にも配慮し、楽しくゆったりとした生活が送れるように生活空間づくりと環境を整え、四季折々の行事やレクリエーションに組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接する山内外科との連携を密に取り、24時間体制で安心していただけるよう健康管理を行っています。法人内にワイワイデンタルクリニックを開設し医師、歯科衛生士と連携し口腔ケア及び維持管理を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、複数の公共交通機関が利用できる便利なところに位置し、近くにはマンションや住宅、また買い物にも便利な商店が立ち並んでいる。建物は、4階建て2ユニットのグループホームであり、1階と4階がリビングダイニング、2階と3階が居室となっている。4階には広いベランダがありお天気の良い日には周りの景色を眺めたり、お茶をしたりして季節を感じながら過ごすことができる。道を隔てて法人の病院があり月2回の往診と随時の診察、緊急時、夜間の往診や歯科医の診察と治療、リハビリも受けられ医療体制が整っている。入居者のやりたい事、行きたい所をケアプランの目標に掲げ、楽しみに繋がるように職員が一体となって取り組んでいる。入居者は、ユニットごとのエレベーターを利用し1階の明るいうち集まって和やかに食事をしたりテレビを見たり、気の合う入居者同士言葉を交わしたりして楽しく交流している。入居者はリビングやソファなど気に入った場所で職員と語りながら穏やかに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を施設内に掲示しスタッフ間に意識付け、実践に繋げています。また当施設では、個々にゆったり、のんびりとしたその人らしい生活ペースで暮らしを送れるように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだですが、少しずつ散歩や買い物、地域の行事にも参加し、施設だけの生活にならないように、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記を実践し、少しずつ声をかけてくださる人や関心を示してくださる人も増えてきました。今後は施設内の行事等を通じもっと地域との関わりを深めていけるように努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ご家族様利用者様からの意見や要望反映できるように努めています。いきいき支援センターの職員にも参加していただき、情報交換の場を設け、サービス向上に生かせるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所との連携の元、相談、指導等を受けながら、実情やサービスの取り組み、改善点に関しても協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しておりますが、状況に合わせ解錠しています。身体面では利用者様の安全を考慮しご家族様の同意を得た上で最小限で行い、日々の業務のなかで話し合い安全なケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに乗っ取りスタッフ間で互いに注意を払い、業務に当たりコミュニケーションを大切に、ミーティングや法人の勉強会で学ぶ機会を設け予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者等が研修にいき、必要に応じて支援していけるようにしています。法人での勉強会を通して、職員一人ひとり理解し支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び支援専門員より、当施設の方針や内容等について十分説明し納得していただいた上で、契約を交わし、入居していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月毎の運営推進会議の開催時や面会時等にご家族様からの意見や要望を伺う機会をもうけ運営に活かしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングや臨時のミーティングを開催しその意見を元に問題点やスタッフの意見や提案聞く機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状態を把握し、公平に判断し各自の向上に努めて印す。また時間外については、必要に応じて給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の勉強会や施設内の勉強会を開催し、個々に参加する機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会への参加をする機会を設けサービスの向上に努めています。他に南東部GH交流会に加入し同業者と交流を図り相互訪問や勉強会等を通じサービス向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から契約の間もご家族様が安心していただけるように十分な説明を行うとともに、ご家族様やご本人様の話に耳を傾けスタッフ間での伝達を行い、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様にとって、何が今必要なかを、スタッフの目を通し見極め、安心していただけるようサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居までの生活リズムを崩さないように、一人ひとりの人間性や性格に配慮し、同じ目線で話をし、日常生活の営みの中で会話等を通じ教わることもあり共に暮らしていける関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室や衣類などご本人様に馴染みの品物等を用意していただけるよう支援し、昔からの馴染みの方々との関係も途切れないように支援し安心して生活していただけるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う利用者様同士テーブルに集うよう配慮し孤立してしまう利用者様には、スタッフが1対1で対応し、月につくりクリエーションの一貫で、作品を共同で作リコミュニケーションがとれるように援助しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ連絡を取り合い管家を大切に相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で訴えや意向に耳を傾け、把握に努め意思表示が困難な方に関しては表情や日頃の状況をスタッフ間で話し合い本人の意向にそえるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりフェイスシートやサマリーを活用し、ご家族様面会時等にも話を伺う機会を設け把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の情報交換や申し送り、介護記録を活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフにケアプランの担当になってもらいご本人様、ご家族様の意見・意思を参考に介護計画に反映できるよう定期的に支援専門員及び計画作成者を交え話し合いを持ち支援計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有しミーティング等で話し合いケアの実践に活かしながら介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいき支援センター等の協力の下、その時々で状況で社会資源を活用し、サービスを支援していけるようにつとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物先や外出先を決め外出の機会を増やし地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療や体調変化に応じて随時病院受診、夜間急変時等24時間対応していただき、ご本人様やご家族様に安心していただけるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護により健康管理と現状把握を行い随時山内外科の看護師、訪問看護師と連携を図り24時間適切な指示支援を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換や相談はは密に行うよう努め、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合には、医師、看護師ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフ間で状況を共有し、共に支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会、年二回の避難訓練時、対応や予防について理解を深めています。事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡が取れるよう体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年二回の消防訓練を実施し、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるよう、装置の点検、確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場煮立ち、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、スタッフ間で注意しながら対応しています。時には方言等を交えながら親近感を持っていただける用、対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の希望に沿えるよう援助しています。また言葉ではうまく表現できない利用者様に対しては、表現等で察知できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活のペースにあわせて、過ごしていただけるよう空間作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の状態や気候にあわせて、好みの服装を選んだり、本人の代わりに支援しています。訪問美容師の方に2ヶ月に1回好みの髪型に整えていただいたり、馴染みの化粧品を用意していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的な介助支援にならないよう、本人の好き嫌いや意欲に配慮し、一人ひとりのペースにあわせて召し上がっていただけるように支援しています。可能な利用者様には盛りつけや片付けを手伝って頂くなどの支援に努めています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態での摂取を行い食事量水分量は記録し、把握を行い、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行って頂きながら、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、利用者様の状態に合わせ、声掛け、介助等で口腔ケアを実施しています。また週1回の訪問歯科医、歯科衛生士によるケア、受診による口腔衛生を行って頂きながら支援に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車いす利用の方でも、自走や立位など自立に向けた支援を行っています、また夜間もポータブルトイレや安眠できるようパッド種類も随時検討しながら支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、一日2回のラジオ体操や天候に合わせた散歩等を実施したり乳製品をとるように心がけ、状況に応じて医師の指示の元下剤等の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立したかたは、ほぼ毎日介助の必要な方は入浴日を決め、援助しています。入浴できない方には、定期的に清拭を実施しております。また季節感を出すためにゆず湯を楽しんでいただいております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムにあわせて、日中の活動量を調整し、居室での休憩時間を確保し、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じて医師と相談し入眠剤の検討も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下服薬管理を行い、個別の看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年二回の合同行事、花見や散歩など外気に触れ気分転換を図れるよう外出計画を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見ながら、利用者様の体調に合わせて、外出の機会を設け支援を行い、ご家族様の参加も呼びかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立て替えであり利用者様に応じて、そのとき所持して頂き、買い物の援助を行い、利用者様の意識維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了承のもと電話対応、手紙のやり取りは出来る限り本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地のよい空間作りを大切にしながら、生活して頂けるよう工夫に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の思い通りに穏やかな時間を過ごしていただけるよう、利用者様同士、気軽に行き来出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのもの、写真や馴染みの物などを飾るなど工夫し、居心地のよい部屋作りに配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自由に楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供し、一方的にならないよう、「できること」「わかること」を確認しながら、安全な環境作りを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう工夫して支援しています。		